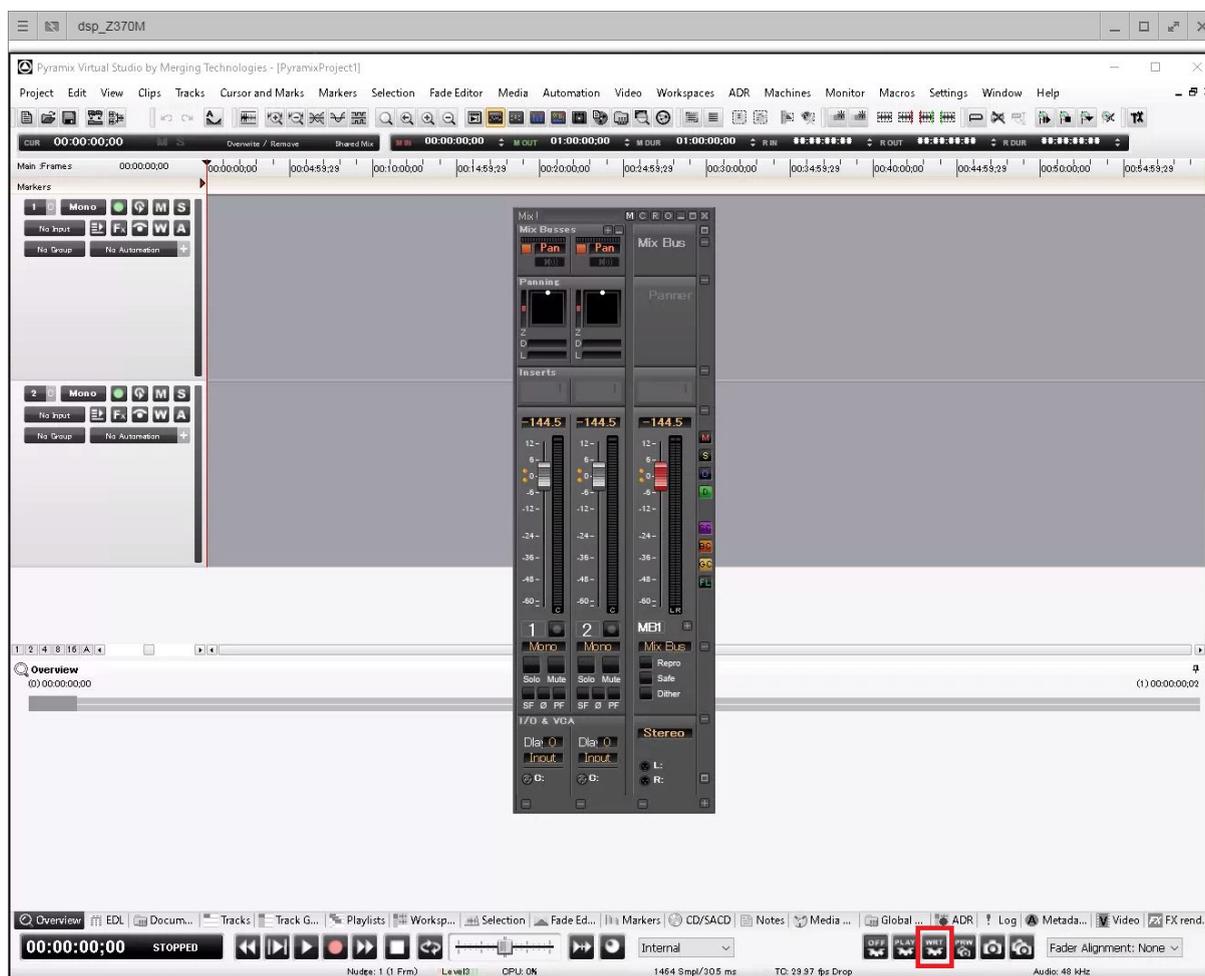


## PyramixのAutomation

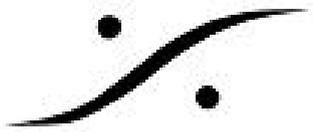
Pyramixでは、ミキサーのオートメーションを行うことができます。

### 基本的なオートメーション（Touch/Releaseの場合）

1. まず最初に、大体の基本となるフェーダー バランスを作ってください。パンニングやEQ, AUXの送りレベルなどもセットしておいてください。
2. 次にPyramixの設定を行います。AutomationのWriteをクリックしてください。



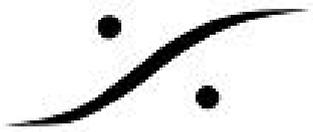
3. 画面（トラック上）にオートメーションの軌跡を表示させるため、トラックボックスのAをクリックしてオンにします。全てのトラックのオートメーションを表示させたい場合は、キーボードのシフトキーを押しながらAをクリックします。



4. Pyramixを再生状態にします。
5. フェーダーなど何かのパラメーターに触るとミキサーのそのパラメーター部分が赤くなり、トラック上に動き（増減）が表示されます。
6. 再生を止めるかパラメーターから手を離すと、元の値まである時間（Settings > All Settings > Application > Automation > Auto Release Options > Release Time (ms)で設定）をかけて戻ります。
7. オートメーションは **Undo/Redo** ができます。

以上がミキサーがデフォルトのAuto Write / Touch / Releaseモードになっている場合のオートメーションの書き方です。ミキサーがどのモードになっているかは、ミキサーのストリップの最下部に表示されています。





## ※ 注意 ※

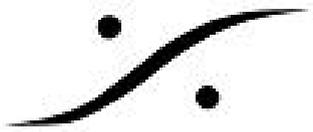
この章より以下は、より細かな説明となります。必要な時にのみお読み下さい。

## Global Dynamic Automation Modes

Automationのツールバーには、ミキサー全体のAutomationモードを決定するモードボタンがあります。



	OFFボタン	AutomationをOffにします
	PLAYボタン	Automationを再生します
	RECボタン	Automationを記録します <b>Touch</b> （次の章で説明）に設定されたパラメーターは、移動されると記録されます <b>Read</b> に設定されたパラメーターは、既存のデータを読みます <b>Isolate</b> に設定されたパラメーターは、現在の位置を保持します
	Previewボタン	オートメーションの読み取りは、パラメーターが動かされるまで有効です トランスポートが停止すると、Filter Automation Tracks to Snapshot Range ダイアログが表示されます
	Snapshotボタン	Filter Automation Tracks to Snapshot ダイアログが表示されます OKすると、以前のSnapshotから動かされたEnableしている全てのパラメーターが現在のカーソル位置の状態に記録されます
	Snapshot Rangeボタン	Filter Automation Tracks to Snapshot Range ダイアログが表示されます OKすると、Mark In と Mark Out 間がカーソル位置のパラメーターとなります
	Designated Bus セレクター	自動遅延補正が有効になっている場合、Automationをどのバスに対応させるかを選択します ドロップダウン リストには、使用可能なすべてのバスとnoneのオプションが表示されます

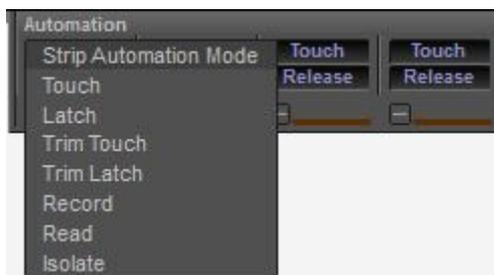


## Dynamic Automation レベル

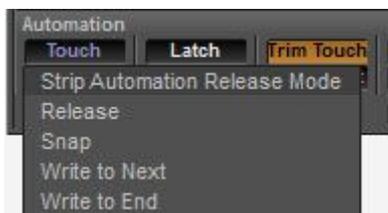
オートメーションには2つの"レベル"があります。

### Level 1

前図の上のコラムをクリックすると、オートメーション モードがストリップ毎に切り替えられます。



その下のコラムをクリックすると、リリース モードがストリップ毎に切り替えられます。



<b>Console Strip Mode</b>	
Touch	コントロールがタッチされると書き込みを開始し、離されると書き込みを停止します。リリース後の動作は、リリースモードによって異なります
Latch	コントロールがタッチされると書き込みを開始します。コントロールが離されたときの値は、トランスポートが停止するまで書き込まれ続けます
Trim Touch	コントロールがタッチされると書き込みを開始し、離されると書き込みを停止します。リリース後の動作は、リリースモードによって異なります
Trim Latch	Trimモードで、コントロールがタッチされると書き込みを開始します。コントロールが離されたときの値は、トランスポートが停止するまで書き込まれ続けます
<b>Release Mode</b>	
Snap	現在の値から直前の値まで、瞬時にジャンプします
Auto-Release	パラメーターを離すと、前回の値まで設定した時間をかけて戻ります
Write to Next	パラメーターを離すと、次のポイントまで値を保持します
Write to End	パラメーターを離すと、離れた時の値に固定されます

Pyramixでは、これらをストリップ毎に設定し、どの様にオートメーションを記録するかを決めることができます。



- **Trimモードとは**

Trimモードは現在のオートメーションの値を「0」として、オフセット量を書き込むモードです。インジケータには小三角形が表示され、Trimモードであることを表示します。

TrimモードのストリップがVCAグループに入っている場合、VCAマスターによって制御されることはありません。



- **“ Write to Next “の「次のポイント (node) 」を時間軸に作成する方法**

1. オートメーションの線上にマウスのカーソルを合わせます。するとカーソルが、に変化します。
2. その点でクリックすると、ポイント (node) が作成されます。

- **マウスカursorの変化**

上記の方法で作成されたポイント (node) や、タイムラインを選択したオートメーションの線にマウスのカーソルを近づけると、カーソルは以下の様に変化します。

	オートメーションの線上にマウスのカーソルを合わせると表示されます クリックするとポイント (node) が作成されます
	ポイントに近づけると表示されます クリック+ドラッグすると、値を変更できます
	タイムラインを選択して <b>Ctrl</b> キーを押しながらオートメーションの線に近づけると表示されます クリック+ドラッグすると、選択した区間のレベルを変更できます
	<b>Ctrl + Shift + Click</b> を押しながらオートメーションの線に近づけると表示されます クリック+ドラッグすると、オートメーションをフリーハンドで描くことができます
	<b>Ctrl + Alt + Click</b> を押しながらポイント (node) に近づけると表示されます クリックするとポイント (node) が消去されます <b>Ctrl + Alt + Click</b> を押しながら、ポイント (node) 間をドラッグすると、その間のポイント (node) が全て消去されます



## LEVEL 2

### 各コンポーネントのAutomationモード切り替え

ミキサー上の各コンポーネントに対するオートメーションは、それぞれのセクション毎に以下のモードに所属させることができます。モードを切り替えるには、それぞれのセクション上でマウスを右クリックし、コンテキストメニューの中の Automation > で設定します。

Follow Strip	そのコンポーネントが属すストリップのモードに従う
Record	常に記録モード
Read	常に読み込みモード
Isolate	オートメーションから切り離す

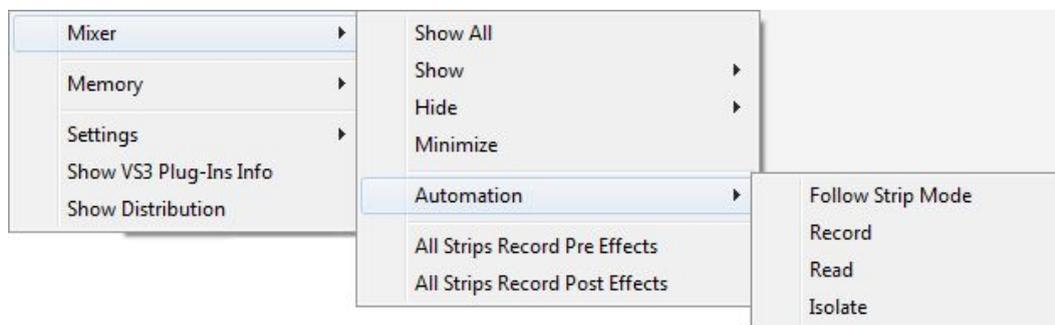
これらのモードは、各コンポーネント毎にセットされたモードに色が変わります。



Follow Strip   Record   Read   Isolate

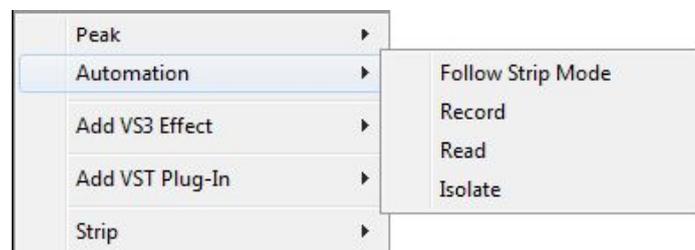
### ミキサー全体のAutomationモード切り替え

ミキサー全体のモードの切替は、ミキサー上を右クリックし、コンテキストメニュー Mixer > Automation > で設定します。



### ストリップ、バス毎のAutomationモード切り替え

ストリップ毎にAutomationモード切り替えは、ミキサーのストリップ上で右クリックし、コンテキストメニューの Automation > から設定します。





## Automationの表示の切り替え

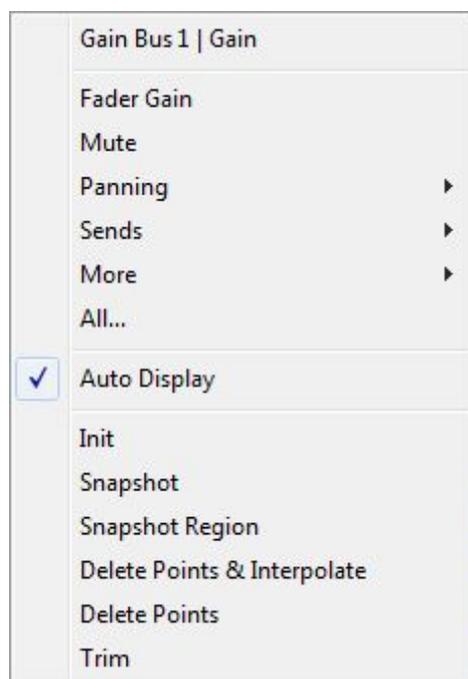
Automationを書き込んでいる時、他のパラメーターに触るとトラック上のAutomation表示がそのパラメーターに切り替わります。

例えば、フェーダーを書き込んでいた時にパンナーに触ると、トラック上のAutomation表示はパンナーのものに切り替わります。

もう一度フェーダーの動きを表示させたい場合は、フェーダーに触って値をアップデートさせればフェーダーのAutomation表示に戻ります。

これは、Auto Display機能が働いているからです。この機能のOn/Offは、トラックボックスのAを右クリックして表示されるコンテキストメニューで行います。

また同じコンテキストメニューの上側には、どのパラメーターをAutomationカーブとしてトラックに表示させるかの切り替えが行える項目があります。



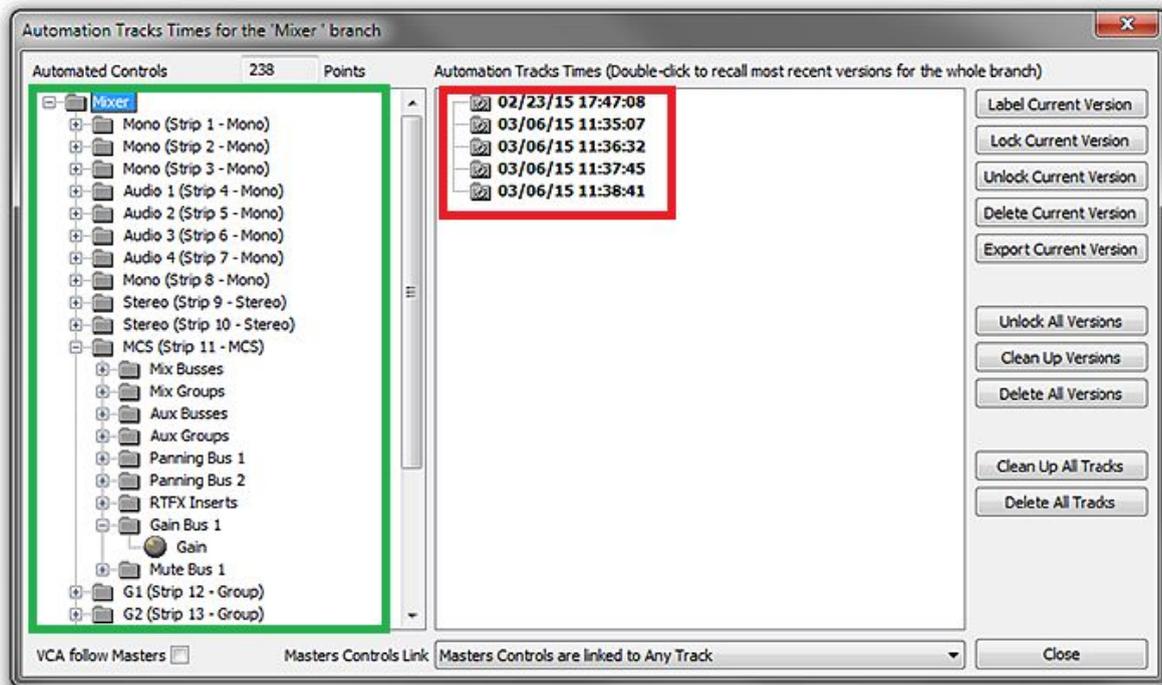
## Automationの編集（書き換え、書き直し、消去）

メニューの Automation > Automation Tracks を選択すると、Automationの履歴が表示されます。次の図の左側（緑枠）にはパラメーターが、右側（赤枠）にはバージョンが表示されています。

バージョンをクリックすると、そのバージョンのAutomationまで戻ることができます。

バージョンをクリックして再度Automationを書くと、右に枝分かれして新しいバージョンが作成されます。

バージョンをクリックで選択して、最も右にあるコマンドを行うことができます。



## Cut, Copy, Paste

Automationは、デフォルトの状態でもクリップとともにCut, Copy, Pasteすることができます。これはEdit > Automation Editingのサブメニューで設定することができます。



## Automationの設定

Settings > All Settings > Application > Automation には、Automationの設定項目があります。

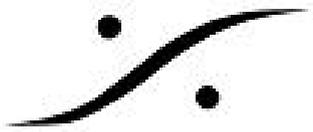
### Optimizations

- **keep only current and locked versions while saving**

現在のバージョンとロックされたバージョンのみを保存する

- **Limit versions to the number of Undo/Redo**

バージョンをUndo/Redoの回数で制限する



## Auto-Release Options

Auto-ReleaseがEnableのとき、コントローラーから手を離すかトランスポートを止めた時に、パラメーターが前の位置にまで戻る時間を設定します。デフォルトは1000msです。

## Preview Mode Options

Previewモードでは、Automation と Snapshot の試行ができます。結果が望ましい場合は保存することができます。そうでない場合、変更内容は破棄され、既存のAutomationが保持されます。

Preview Mode Options

Auto write on Stop

Confirm on Stop

Manual write (Preview button)

Affect Parameters in :

Isolate

Read

Touch / Latch

Write / Record

Auto write on Stop	変更された全てのパラメーターにAutomationが適用されます
Confirm on Stop	トランスポートが止まると、Filter Automation Tracks to Snapshot Rangeダイアログが表示されます (Snapshot Rangeボタンと同様)
Manual Write	パラメーターを変更した場合、トランスポートが止まるとPreviewボタンが点滅します 自動的にFilter Automation Tracks to Snapshot Rangeダイアログは表示されません Previewボタンをクリックするとダイアログが表示されます

## Affect Parameters in:

Automation Previewモードの場合に影響を受けるモードを選択します。

## Options

### Check Source/Destination settings

有効にすると (デフォルト)、プロジェクトが開かれたときにプロジェクトが検証され、Automation > Automation Track : Master Controls Link の設定が Master Controls are linked to any Track に設定されます。

### Preview mode: Popup Snapshot window on Stop

有効にすると、トランスポートが止まった時に "Filter Automation Tracks to Snapshot ..." ダイアログが表示されます。